

バーチャル&リアル

湘南デザイン株式会社 相模原市緑区橋本台

仕事から見る湘南デザイン

試作品製造のスペシャリスト

試作品を作る専門の会社があることを知っているだろうか。試作品とは、「新製品を世に出す前に試しにつくられた製品」のことで、新製品を生産するために欠かせない工程である。

新製品を生産する前には、幾度の試行錯誤を繰り返し、ベースとなる製品を完成させる。試行錯誤の中で重要なのが「試作」である。試作によって製品を三次元で表現することで、作図上・理論上ではわからない細かな点までチェックすることができる。

湘南デザインは、試作という工程を様々な会社から請け負うスペシャリストであり、IT 製品、白物家電、自動車など、様々な分野の製品の試作品を手掛けている。”バーチャル&リアル”の考え方（デジタルデータとアウトプットを有機的に結び付けて加工プロセスを最適化する）と、豊富な加工技術を用いて高精度な試作品を製作している。

試作品をつくる技術

試作品の製作には、商品の製造時では使われない独特の技術がいくつかある。その中でも最新技術を用いた試作の製作方法として代表的なものに、「光造形」と「粉末焼結造形」がある。光造形は、紫外線レーザーで液体樹脂を硬化させてモデルを製作する。製作にかかる時間が短く、とにかく早く試作品がほしいという新製品の開発者に応えた技術である。粉末焼結造形は、ナイロンの粉末をCO²レーザーにより溶融焼結（溶かして固める）するもので、

強度性に優れ、高耐熱な特徴のあるモデルをつくることができる。他にも、高性能な切削・加工機（5 軸マシニングセンタ）や最先端のCAD ソフトを用いて、高精度な試作品をつくり上げる。

“最先端コンピュータ”から“手作業”まで

同社のすごいところは、最先端技術だけではなく、技術者の“手作業”にもある。最先端のCAD ソフトや何億円もの立体造形マシンを駆使すると同時に、自動車の座席シートなどの布部品は職人（年齢 70 歳 !!）がマシンで製作している。そして、その技術を若い世代に伝えている。日本ならではのモノづくりの風景を見ているようだった。

また、“人”が生き生きと働いている。もちろんコンピュータなどのハイテク技術も目をひくが、現場では“人の手”が動き、それぞれが高い技術をもっている。これも松岡康彦社長が“人”に重きを置いた採用をしているからだろう。最先端コンピュータから手作業まで、これも別の意味での「バーチャル&リアル」なのではないだろうか。



社長から見る湘南デザイン

社長としての歩み

松岡社長は 27 年前、27 歳のときに湘南デザインの 2 代目社長となった。社長になった当初は経験不足を痛感し、恥ずかしい思いをする日々を送っていたそうだ。しかし「所詮若造にはなにもできない」と思い直し、臆せず、恥をかくことも苦にせず、素直に人に教えてもらう姿勢に徹した。そしてモノづくりに変革の 때가訪れる。コンピュータの登場である。ここで、清水の舞台から飛び降りるつもりで 1 億円をコンピュータに投資をするという思い切った決断をする。その当時のことを伺うと「それまでの工作機だとつくりたいものがつくれなくて、つまらなかったんだよね」と笑って答えてくれた。訪問時は面白い社長だと思っただけだが、今思えば、20 年先を見据えて行動に移した「先見の明」があったのではないだろうか。

そして、ここから本当の意味での松岡社長の湘南デザインが始まり、躍進する。



松岡社長

スポンジ・コンクリート・こんにゃく

若き日に苦渋を味わった松岡社長だからこそ、どういう人に育てたい、どういう人と一緒に仕事がしたいということについては独自の考え方を持っている。それが「スポンジのように知識を吸収し、その知識をコンクリートのように強固に固められ、しかしながら、こんにゃくのような柔軟性をもって行動できる人」。そのため、社員の採用に関しても、大企業のように計画的に行っていない。「藁が千本集まっても柱にはならない、しかし、木は一本でも柱になれる。そんな柱になれる人だけを集めていきたい」という信念のもとでの行動である。

最後に

「なんかつくりたくなってきた…」。

これが同社を訪れた時の率直な感想だ。社内は試作品をつくるために様々な機械や道具、デザイン画などがあり、さながらモノづくりの「アトリエ」といった感じになっている。そのためだろうか。小さい頃、プラモデルやミニ四駆、レゴブロックで遊んでいた時の、モノをつくることのワクワク感を思い出した。この感覚は、男子諸君は一度は感じたことがあるだろう。子どもの時の遊びと同社が行っていることはスケールも技術のレベルも雲泥の差があるが、モノをつくっていて楽しいと感じることは変わらないと思う。同社の社員は、きっと仕事を楽しんでいるのではないだろうか。



コラム ～未来を生きる人々へ～

社長の言葉を代弁して、今の若者たちへメッセージを送る。

「変化をつかみ金鉱脈を探せ！」

松岡社長は、約 20 年先までは経験を積み見据えることが可能であるという。正直 20 年先は無理だとしても、先を見据えて行動をすることで、変化にいち早く対応し、勝ち馬に乗ってほしい。

「4 番サード長嶋になれ！」

元プロ野球・読売ジャイアンツの選手で、国民的人気のある長嶋茂雄氏は、打撃のみならず、守備にも定評のある選手だった。時に通常の守備範囲を超え、本来ならば遊撃手が捕るべき打球にまで反応し、猛烈なダッシュとともに捕球を試みる場合も多かったそうだ。ここで言いたいことは「自分の興味のある分野を超えて、様々なことに挑戦してほしい」ということだ。若いうちから自分の興味のある分野を絞らず、いろいろなことに手を出し、可能性を広げてほしい。

企業からのメッセージ

常に、『世の中の動きと状況の変化』をつかみ取り、素早く対応できる感性と実践力が求められる。
(湘南デザイン株式会社 松岡康彦)

湘南デザイン株式会社

所在地	相模原市緑区橋本台 3-6-1
代表者	松岡 康彦
資本金	9,320 万円
従業員数	147 名
創業	1967 年
事業内容	3 次元環境を用いた「試作モデル製作」「デザイン受託」「ショーカー製作」
電話（代表）	042（774）2111
ホームページ	http://www.shonan-d.co.jp/

担当 米倉和希 上原歩美 14